

横浜市道高速横浜環状北線 (横浜環状北線トンネル)の概要について

1. 全体位置図
2. 路線概要
3. トンネル設備
4. 主な迂回路について

1. 全体位置図

首都高ネットワークと横浜環状北線



2. 路線概要

○横浜環状北線及び横浜環状北西線は、「横浜環状道路」の北側区間を構成する総延長約 15 km の路線

○北線と北西線とが一体として機能することで、

- ・東名高速と横浜港を直結し、横浜市北西部と横浜都心・湾岸エリアとの連絡強化
- ・保土ヶ谷バイパスに集中する交通の分散に伴う混雑緩和と環境改善
- ・災害時における道路ネットワークの信頼性向上

○横浜市域、神奈川県、首都圏全域の交通ネットワークとして非常に重要な役割を果たす路線

○北線は平成28年度開通予定



2. 路線概要



横浜環状北線の概要

路線名 横浜市道高速横浜環状北線
(路線呼称: 高速神奈川7号横浜北線)
起点 横浜市都筑区川向町
終点 横浜市鶴見区生麦二丁目

路線延長 約8.2km

道路区分 第2種第1級(自動車専用道路)

車線数 4車線(片側2車線)

設計速度 60km/h(ジャンクション及び出入口40km/h)

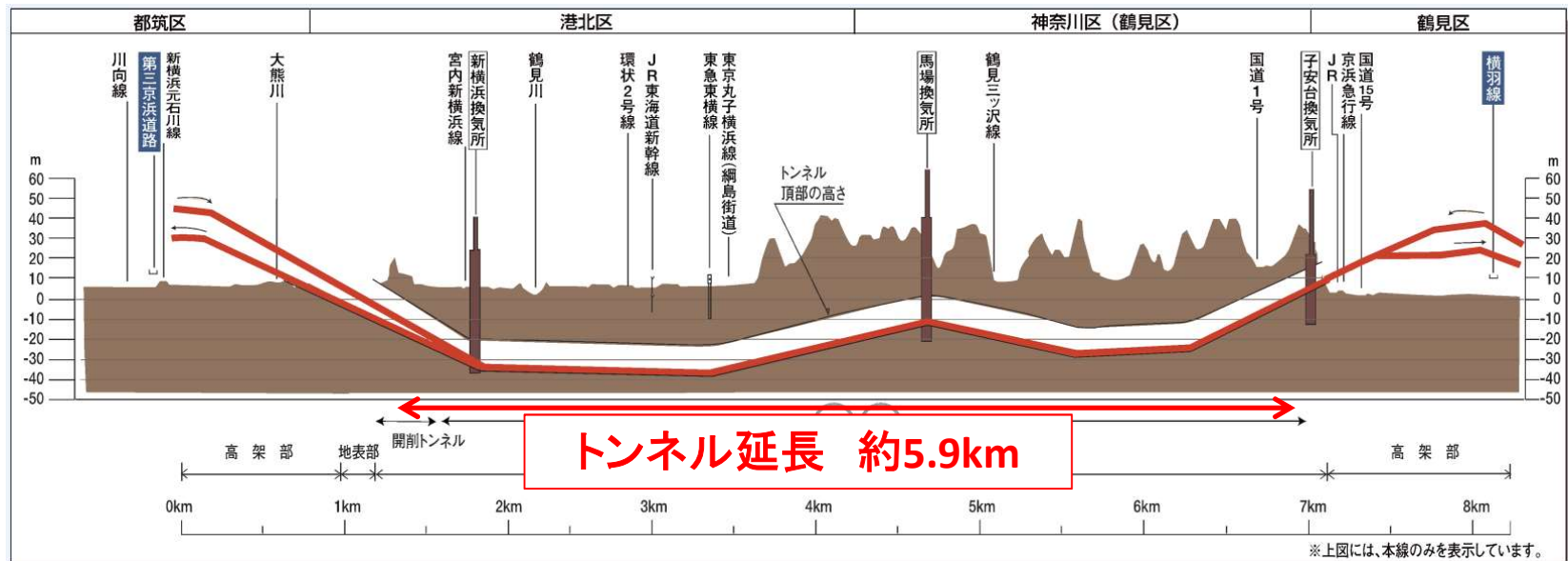
道路構造
トンネル構造 約5.9km
高架構造 約2.1km
土構造 約0.2km

計画交通量 40,000～54,000台/日

トンネル等級 AA等級

2. 路線概要

横浜環状北線概要図(平面図・縦断図)



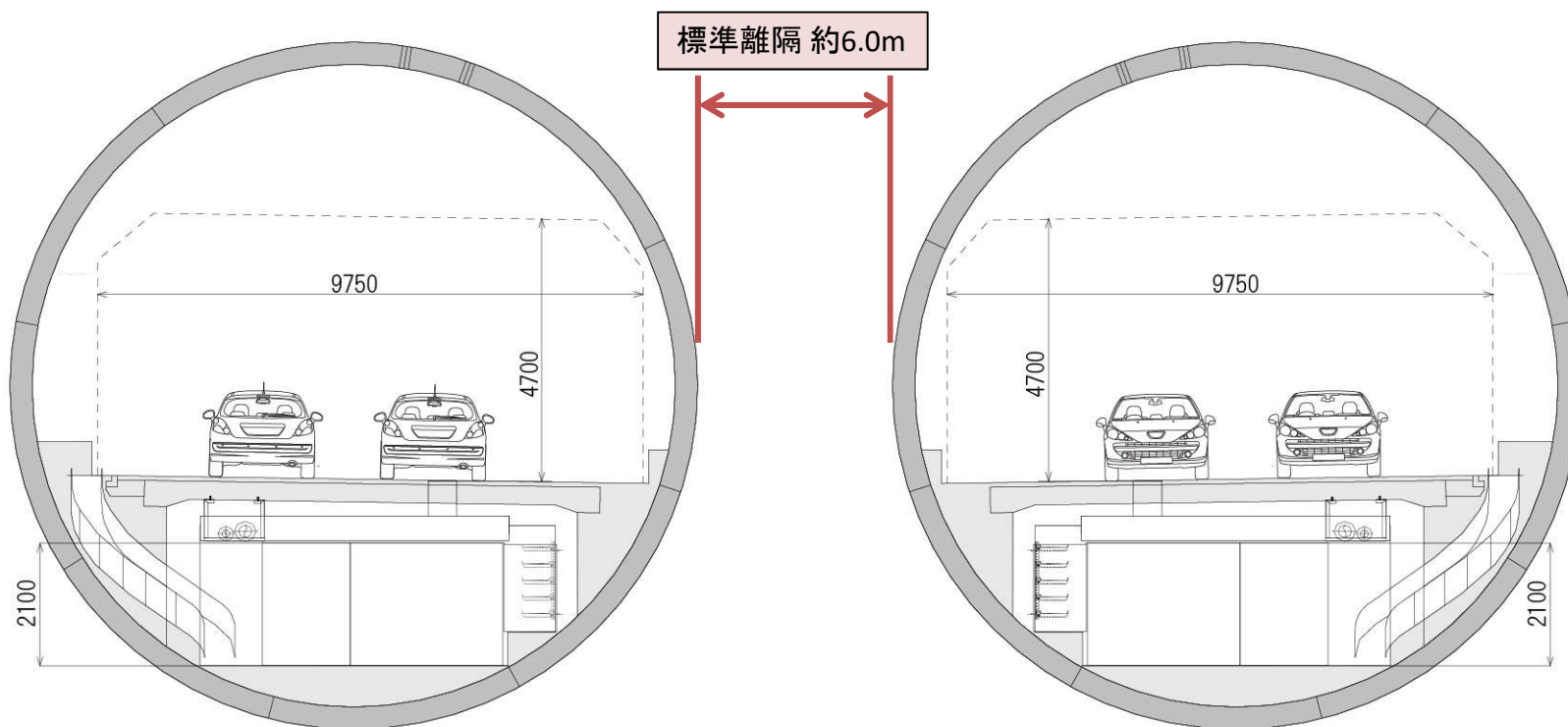
※上図には、本線のみを表示しています。

2. 路線概要

横浜環状北線概要図(本線シールド標準断面図)

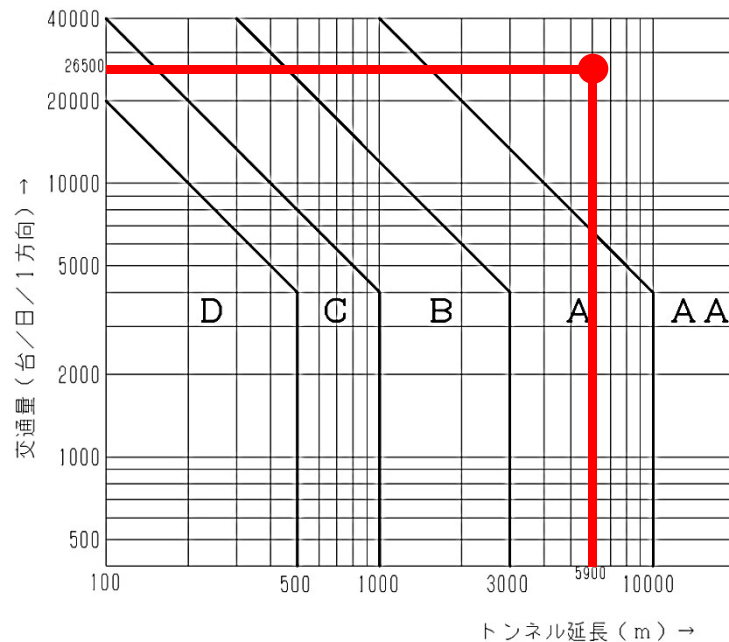
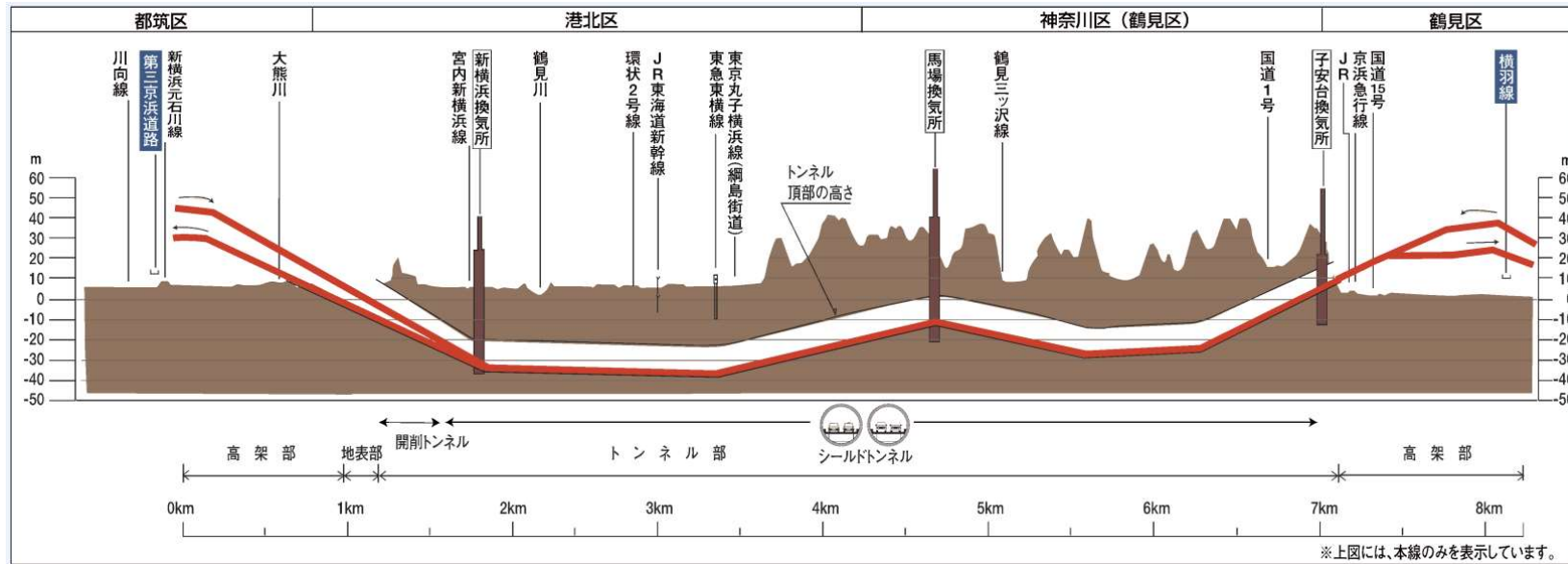
横浜港北ジャンクション方向

生麦ジャンクション方向



3. トンネル設備

横浜環状北線トンネル トンネル等級



諸元

トンネル延長 約5.9km

日交通量(一方向あたり) 26,500台/日

⇒ **AA等級**

3. トンネル設備

横浜環状北線トンネル トンネル非常用設備

非常用施設		AA等級	北線での対応	
			設置有無	備考
警報通報設備	非常電話	◎	設置	100m間隔
	押しボタン式通報装置	◎	設置	50m間隔
	火災検知器	◎	設置	25m間隔
	非常警報装置 (トンネル警報板)	◎	設置	坑口・分岐部手前等に設置
	信号機	○	設置	公安委員会と協議済
消火設備	消火器	◎	設置	50m間隔
	泡消火栓	◎	設置	50m間隔
避難誘導設備	非常口	◎※1	設置	標準部(縦断勾配2%以下): 250m 急勾配部(縦断勾配4%以上): 50m 馬場出入口ランプ部: 50m
	誘導表示板	◎	設置	50m間隔
	排煙設備	◎※1	設置	ジェットファン及び換気ファン
その他設備	給水栓	◎	設置	50m間隔
	水噴霧設備	◎	設置	25m×2区画
	無線通信補助設備	◎	設置	
	ラジオ再放送設備	◎※2	設置	
	拡声放送設備	◎※2	設置	
	監視用テレビ装置	◎	設置	100～150m間隔(無死角)
	無停電電源装置	◎	設置	
	非常用予備発電設備	◎	設置	
	緊急車出入口	○	設置	生麦側は設置、港北側は坑口付近の出入口を利用 床版下への進入路は設置
	Uターン路		設置	各換気所部付近
	遮断機		設置	坑口・分岐部付近に設置

凡例 ◎: 設置しなければならないもの ○: 必要に応じて設置するもの

※1 排煙設備または避難通路を原則として設置する

※2 ラジオ再放送設備または拡声放送設備を原則として設置する

3. トンネル設備

横浜環状北線トンネル トンネル非常用設備

万全のトンネル防災設備を設置



① 拡声放送スピーカー

200m以内の間隔でスピーカーを設置し、ドライバーに情報を伝達します。明瞭性を確保するため時間遅延技術を採用しています。



⑥ ジェットファン

トンネル火災発生時は、煙が避難の妨げにならないよう、空気の流れを調整し、避難の時間を確保します。



② ラジオ再放送設備

トンネル火災発生時は、現場の状況や避難誘導などの緊急放送を、各ラジオ放送に割り込み発信します。



③ 自動火災検知器

約25m間隔で設置しています。火災時に発生する赤外線を自動的に検知し、管制室にいち早く知らせます。



④ 水噴霧設備

管制室からの遠隔操作により、約50mの範囲に霧状の水を散布し、火災の延焼や拡大を防ぎます。



⑤ トンネル用信号機・トンネル警報板・遮断機

非常時にトンネル内の火災、事故等の情報をトンネル用信号機・トンネル警報板でお知らせします。また、パトロール隊が遮断機で閉鎖します。



⑦ 消火器・泡消火栓

消火器や簡単に扱える泡消火栓を約50mの間隔で設置しています。無理のない範囲での初期消火をお願いします。



⑧ 押ボタン式通報装置

約50m間隔で設置しています。火災時または非常時にボタンを押すことで、管制室へ通報できます。



⑨ 非常電話

100m間隔で設置しています。受話器を取ると管制室に連絡できます。また、受話器を取り、通話ランプが点灯してから「故障」「事故」「救急」「火災」のいずれかのボタンを押していただいても、管制室に用件が伝わります。



⑩ 非常口

250m以内に設置されている非常口から避難通路を通じて、地上出口まで避難することができます。



3. トンネル設備

横浜環状北線トンネル 道路管理体制

情報収集



テレビカメラ



パトロールカー

情報処理



電算処理



交通管制室



異常事象検出システム

情報提供・緊急対応



トンネル警報板



トンネル用信号機・遮断器

4. 主な迂回路について

- ▶ 横浜環状北線を規制した場合においても、危険物の保管施設がある根岸湾や川崎港から、東名高速や第三京浜等への迂回経路は確保されている。

